

高等学校（国語 古典B）学習指導案

1 単元名

「筒井筒」（『伊勢物語』第二十三段）

2 単元について

(1) 生徒観

7月に実施した事前調査で、「なぜ古典を学ぶのか」という質問に対して最も多かった回答は「古典を勉強するように言われるから」で63%（16人中10人）であった。また、「古典学習が日常生活の中で新たな気付きにつながったり、役立ったりしている」という実感をもつ生徒は19%（16人中3人）と非常に少なく、古典学習の意義を理解し、活用したいという認識には至っていないことが分かる。

話し合い活動は1年次から積極的に授業に取り入れられており、80%以上の生徒が「ペアやグループでの学習活動をしたい」と回答している。しかし、「話し合いの中で、自分の考えが広がったり、深まったりしている」と回答した生徒は63%に留まり、アンケートの記述から、話し合い活動の中で自分の意見をうまく言えなかったり、グループ構成によっては意見が対立して答えがまとまらなかったりすることが、その原因の1つとなっていることがうかがえる。

(2) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容(1)の「ウ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」を受けて設定したものである。

本教材は平安時代の恋愛や結婚を取り扱ったものであり、生徒にとっても古典を身近なものに感じやすいテーマである。和歌の解釈などの本文読解を通じた人物の心情理解や、平安時代の成人の儀式や婚姻制度といった古典常識の学習を通じて、平安時代と現代の共通点や相違点について理解した上で、生徒自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにし、思考力・判断力・表現力を育成することをねらいとしている。

(3) 指導観

本文の叙述と当時の時代背景を根拠として問いに答えることを通して、登場人物の思想や感情を的確に捉えさせたい。そこで、グループによる対話的活動を取り入れ、まずは自分で考え、その後生徒同士で考えを比較・関連付けたり、整理したりすることで、自分の考えを深め、確かなものにしていくことができるようにしたい。さらに、そこで得られた答えを自身のものの見方、感じ方、考え方と照らし合わせることによって、それらを豊かにするとともに、古典の世界を身近なものとして捉え直し、古典学習の意義の理解と、活用・探究への意欲につなげていきたい。

また、対話的活動での考えの広がり・深まりを促すための手立てとして、意図的なグルーピングを行い、ファシリテーターを務める生徒を各グループに必ず配置することで、自己の意見を表出しやすく、円滑な意見交換のできるグループ構成にしていきたい。

なお、対話的活動後の考えの広がり・深まりを生徒がより自覚しやすくするための評価規準として、Sue Fostaty Young 氏の提唱する「ICEモデル」の理論を用いたICEルーブリックを提示したい。

ICEルーブリックでは、生徒の学びが「I（Ideas / 考え・基礎知識）」、「C（Connections / つながり）」、「E（Extensions / 活用・ひろがり）」のどのレベルに達しているのかを生徒自身が客観的に把握することができる。ICEルーブリックによって個人の考えから活用のレベルまでの過程を実感することで、古典学習における知識の活用とはどのようなものなのかを理解させたい。

3 単元目標

- ・古典についての理解や関心を深め、人間や社会などに対して自分なりの考えを形成しようとする。(関心・意欲・態度)
- ・文章の内容や人物の心情を的確に捉えて人間や社会などに対する自らの考えを深めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。(読む能力)
- ・文法、古典常識、和歌の修辞法などの知識を身に付け、内容や人物の心情理解に役立てる。(知識・理解)

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・古典についての理解や関心を深め、人間や社会などに対して自分なりの考えを形成しようとしている。	・文章の内容や人物の心情を的確に捉え、共感、疑問、思索などを通して人間や社会などに対する自らの考えを深めている。 ・古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	・文法、古典常識、和歌の修辞法などの知識を身に付け、内容や人物の心情理解に役立てている。

5 指導と評価の計画 (全 4 時間 本時 3・4 / 4)

時	学習活動	対話的活動	ねらい	評価の観点			評価規準	評価方法
				関	読	知		
1 ・ 2	本文を読解する。 読解を基に自分の考えをワークシート(1)にまとめる。		人物の心情理解や、古典常識の学習を通じて、平安時代と現代の共通点や相違点について理解する。 読解した内容を基に、自らの考えをもたせる。			○	文法、古典常識、和歌の修辞法などの知識を身に付け、内容や人物の心情理解に役立てている。 古典についての理解や関心を深め、人間や社会などに対して自分なりの考えを形成しようとしている。	行動観察 ワークシート(1)の記述内容の分析
3 ・ 4 本時	問いの答えについてグループ(4人×4)で話し合う。 グループの意見を発表する。 グループでの話し合いを基に、自分の考えを再度ワークシート(2)にまとめ直す。	討議のポイントを基に、問いに対する各自の考えを吟味し、よりよい意見を形成する。	自らの考えと他者の考えを比較したり、関連付けたりすることで、思考力を高める。 古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、現代との共通点や相違点について考える。			○	文章の内容や人物の心情を的確に捉え、共感、疑問、思索などを通して人間や社会などに対する自らの考えを深めている。 古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。	行動観察 ワークシート(1)、発表用シート、ワークシート(2)の記述内容の分析

6 本時

(1) 目標

- ・文章の内容や人物の心情を的確に捉え、共感、疑問、思索などを通して人間や社会などに対する自らの考えを深めている。【読む能力】 (3/4 時間)
- ・古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。【読む能力】 (4/4 時間)

(2) 展開

3/4 時間

対話的活動 評価 (A…十分満足 B…おおむね満足 ★…努力を要する生徒への支援)

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (◆) (評価方法等)
導入	1 本時の問いを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">問い 男の女に対する心情はどのようなものだったろうか</div>		
展開	2 前時に個人で考えた意見について、グループで話し合い、意見をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・トゥールミンの「三角ロジック」を提示し、主張・根拠・理由を意識してグループ内で討議させる。 ・ほかの生徒の意見を参考に追加・修正する場合は赤ペンで記入させる。 ・各グループの発表者を決めて話し合いをさせる。 ・話し合いの内容を受けて、グループでの意見をまとめ、学習用PCでパワーポイントのシートに記入させる。 	<p>◆文章の内容や人物の心情を的確に捉え、共感、疑問、思索などを通して人間や社会などに対する自らの考えを深めている。</p> <p>【読む能力】 (ワークシート(1), 発表用シートの分析)</p> <p>A: 本文の叙述や当時の婚姻制度などの根拠を複合的に捉えて考えを形成し、説明している。</p> <p>B: 本文の叙述を基に考えを形成し、説明している。</p> <p>★: ほかの生徒の意見を参考に記述を修正するよう促す。</p>
まとめ	3 次時の活動を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見がまとまっていないグループは、次時まで意見をもとめ、発表用シートに記入しておくように促す。 	

4 / 4 時間

対話的活動 評価 (A・・・十分満足 B・・・おおむね満足 ★・・・努力を要する生徒への支援)

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (◆) (評価方法等)
導入	1 本時の問いを確認する。 問い 男の女に対する心情はどのようなものだったろうか		
展開	2 グループでまとめた意見を発表する。 3 話し合いの内容や各グループの意見を踏まえ、ワークシート(2)の記入を行う。 (1) 話し合いを受けて、個人の考えがどのように変化したかを記述する。 (2) 平安時代の恋愛や婚姻制度についてペアで話し合い、確認する。 (3) 平安時代と現代の共通点や相違点について整理するとともに、本単元の学習内容が自身のものの見方・考え方にどのように影響を与えたかについて考え、記述する。	・グループでまとめた意見を電子黒板に提示する。 ・ICEルーブリック*を提示し、Eレベルを目指して記述するよう促す。 ・個人の考えと、グループでの話し合いを経た後の考えの違いや深まりを意識するよう促す。 ・平安時代と現代の共通点や相違点について考え、その知識を得たことによって、自身のものの見方・考え方がどのように変化したかを意識するよう促す。	◆古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 【読む能力】 (ワークシート(2)の記述内容の分析) A：Eレベルの記述を行うことができている。 B：Cレベルの記述を行うことができている。 ★：個人の考えのレベルから変化が見られない場合は、CEレベルの判定基準を見直すよう促す。
まとめ	4 単元の振り返りをする。	・単元の目標が読解に基づいて自分自身の考えをもつことと、平安時代と現代の共通点や相違点について理解し、生徒自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることであったことを再度伝え、古典学習の意義について考えることにつなげる。	

* ICEルーブリック

I (Ideas / 考え・基礎知識)	C (Connections / つながり)	E (Extensions / 活用・ひろがり)
○自分の考えをもっている。	○根拠と共に、自分の考えを述べている。	○根拠を基に、より客観的で妥当性の高い意見を形成している。
○平安時代の婚姻制度について理解している。	○当時の時代背景を基に、人物の行動や心情を理解している。	○平安時代と現代の恋愛・結婚に関する共通点・相違点について、本文の内容を基に自分の意見をもつことができている。